

【エクアドル内政・外交：2022年1月】

1. 内政

(1) コロナウイルス感染症状況

1月末日時点での累計感染者数は732,038人、累計死者数は34,533人となっている。ワクチン接種人数については、同日時点で1回目接種1410万人、2回目接種1329万人、3回目接種254万人となっている。

3日、オミクロン株の新規感染事例が44件確認され、国内事例は合計68件となった。年末年始以降感染者数が急増し、新規感染者数が+10,000人／日を超える日が複数確認された。16日、国家緊急事態委員会（COE）は危険信号制を再導入し、感染危険レベルに応じた感染対策を講じていくことを決定した。感染拡大の影響を受け、1月中は国会の対面式会合は中止され、すべてオンラインでの会合実施となった。

20日、PROSUR主催で南米地域でのワクチン生産に関するフォーラムが開催され、ガルソン保健大臣が出席した。エクアドル国内でのワクチン生産についても意欲を示した。

(2) 国会情勢

10日、国会に提出された性暴力による妊娠中絶法案に関する議論が開始された。中絶を認める妊娠期間について議論が続けられている。

25日、政府は、警察や軍による武器の使用範囲を拡大することを主要目的として、統合的治安維持及び公権力の強化に関する法案（Ley de Seguridad Integral y Fortalecimiento de Fuerza Publica）を提出した。

(3) 憲法裁判所による憲法第422条解釈請求の棄却

12日、憲法裁判所は、2018年に国会より提出されていた憲法第422条の解釈請求を棄却した。同条は、契約及び貿易に関する紛争解決を国際仲裁プロセスに委ねる条約の締結を禁じている条項であり、国会は、投資保護協定の締結は同条に抵触しないとする意見に関して憲法裁判所の判断を求めていた。憲法裁判所は、当該解釈請求は条文の個別具体事例への適用可否を判断する解釈行為を求めるものであり、憲法裁判所はこの権限を有しないとしてこれを棄却した。

(4) キト市ラ・ガスカ地区における土砂災害の発生

31日、キト市ラ・ガスカ地区（旧市街より約2キロ北に位置する住宅街）において、豪雨を原因とする土砂崩れが発生した。70人以上にのぼる死傷者がでたほか、同地区では家屋損壊や道路閉鎖が各地で発生し、大きな混乱をもたらした。

2. 外交

(1) 外務大臣交替

3日付大統領令第307号にて外務大臣の交替が発表され、前任のモンタルボ外務大臣に代わりカルロス・オルギン氏（ラッソ政権下でワクチン接種担当を務めていた人物）

が新たに外務大臣に就任することが決まった。ラッソ大統領は、オルギン新外相の職務として各国との貿易協定促進を通じた外交政策の強化及びエクアドル経済の活性化を挙げている。

（２）オルギン外務大臣のＣＥＬＡＣ外相会合出席

６日から７日にかけて、オルギン外務大臣は、就任後初の外遊としてブエノスアイレスを訪問し、第２２回ラ米・カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）外相会合に出席した。オルギン外相は、外相会合の演説で昨年議長国を務めた墨のリーダーシップをたたえるとともにＣＥＬＡＣの更なる団結を呼びかけた。

さらに、当該外相会合のマージンにてカフィエロ亜外相及びブスティージョ・ウルグアイ外相とそれぞれ外相会談をおこなった。

（３）ラッソ大統領の訪中

９日、記者会見にて、２月初旬にラッソ大統領が訪中することで調整している旨発表があった。北京冬季五輪開会式への参加が予定されるほか、対中債務返済条件の再交渉、エクアドル中国間の自由貿易協定締結交渉開始に向けた覚書の署名、エクアドル沿岸部付近における違法漁業の取り締まりを含む海洋生態系保全に関する議論などが行われる見通し。３１日、ラッソ大統領は中国に向けて出発した。

（４）ガラパゴス諸島周辺海域の保護区域拡大

１４日、ガラパゴス諸島周辺海域の保護区域拡大を正式に発表する大統領令第３１９号の署名及び記念式典がガラパゴス諸島サンタクルス島にて実施された。当該式典にはクリントン元米大統領、ドゥケ・コロンビア大統領等各国政府高官が参加し、国内からも複数の閣僚が参加した。

（５）ラッソ大統領のコロンビア訪問

２５日から２７日にかけてラッソ大統領はコロンビアを往訪し、第１６回太平洋同盟首脳会合にオブザーバーとして参加し、エクアドルの早期加盟が認められるよう関係各国に協力を要請した。加えて、第３回ラテンアメリカの進歩と発展のためのフォーラム（ＰＲＯＳＵＲ）首脳会合に出席し、安全保障やポストコロナ経済、科学技術の活用等、域内共通の関心事項及び課題について話し合った。

（６）エクアドル米オンライン外相会談の実施

２８日、オルギン外務大臣はブリンケン米國務長官とオンライン外相会談を実施した。安全保障分野で米国がエクアドルに行っている支援について言及があったほか、ガラパゴスの保護区域拡大やエクアドルのベネズエラ難民受け入れに対して米国側から祝意が表された。